

経営比較分析表（令和4年度決算）

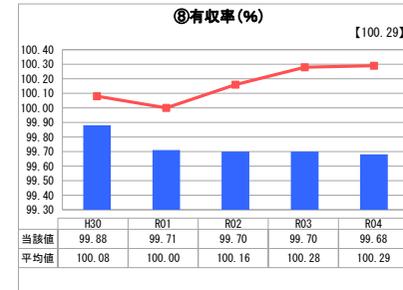
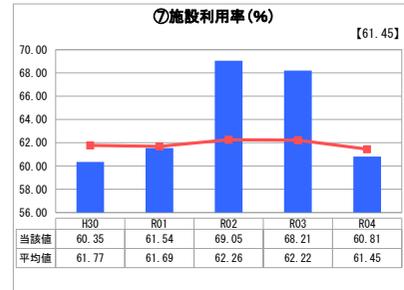
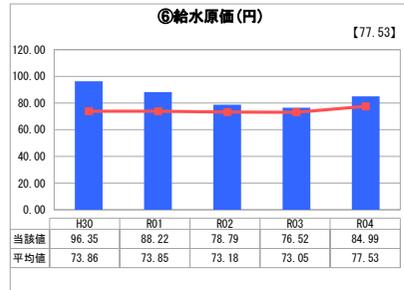
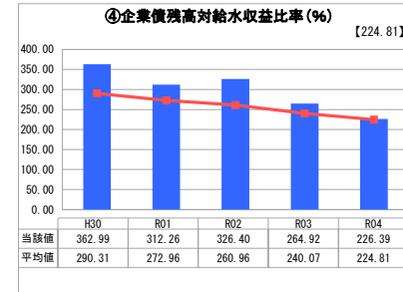
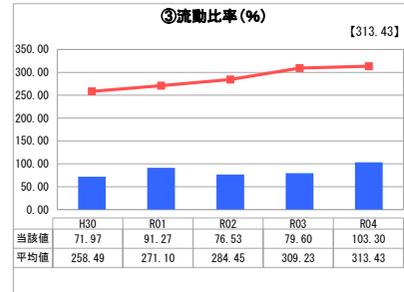
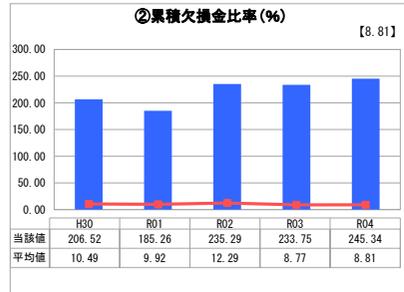
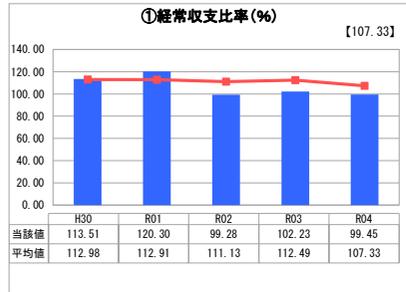
北海道 十勝中部広域水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	89.13	93.65	0	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
246,469	723.14	340.83

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析概

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率・②累積欠損比率
経常収支比率は、100パーセントを下回っており、累積欠損比率が増加している。

③流動比率
100パーセント前後で推移しているが、必要な資金は確保されている。

④企業債残高対給水収益比率
企業債残高は、減少傾向にあり、類似団体と同程度の比率となった。

⑤料金回収率
100パーセントを下回っており、事業に必要な経費を料金で賄うことができていない状況である。

⑥給水原価
類似団体よりも高い水準で推移している。

⑦施設利用率
類似団体と同程度である。

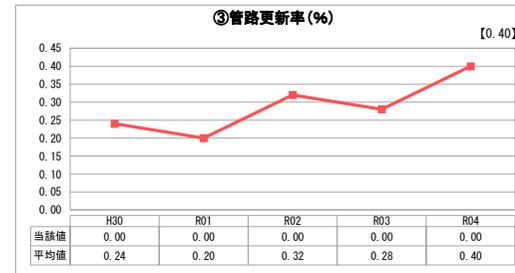
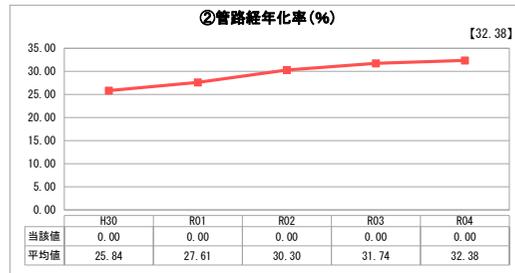
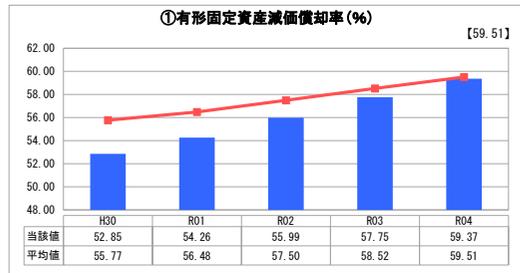
⑧有収率
99パーセント前後で推移しており、今後も同程度の水準を維持していく。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値と同程度で推移しているが、用水供給事業開始から20年以上が経過しているため耐用年数を超過する資産も現れてきている。

管路は、現段階では耐用年数に達していない。

2. 老朽化の状況



全体総括

指標全体としては、概ね健全な経営であると考えられる。
累積欠損比率が類似団体と比較すると高い値だが、経営全体においては、必要な資金(現金)が確保されている状況である。
今後、減少する水需要に応じた施設規模の適正化、業務の効率化によるコスト削減に取り組み、資金確保に努めていく。